

## 大井町立相和小学校

研究テーマ：自立に向かう子

### 1 実践の目的

今年度の研究テーマは、「自立に向かう子」である。これは、昨年度までの研究成果をもとに、本校の児童がどのように育ってほしいか、職員全体で話し合い、新しく設定したものである。

授業をとおして、児童が自己選択・自己決定の機会を数多く経験することで、「先生がいなくても自分たちでやっていけるから大丈夫」という児童を目指す。学習の主体は児童である。教師は、児童の自立のために、個別最適な学びと協働的な学びを推進し、具体的な手立てを構築し、コーチングする。

また、自然豊かな相和の地域素材を活用し、日々児童の学びと教師の授業づくりを実践することで、研究テーマの達成を目指して実践した。

#### ○学びの構想図



### 2 実践の内容

#### (1) 授業研究

児童を中心に考え、学びの質を高めるために、具体的な児童の姿、発言、関わりが、担任がねらいとする「自立に向かう子」になっていたかどうか、研究協議で検証した。授業の中で児童が主体的に学ぶ姿、発言、関わりが見られるよう事前に計画するとともに、手立てや留意点、支援の方法について指導案に明記し、職員で共有してから授業実践を行った。

#### (2) 異学年交流

##### 学び合いタイム

国語「書くこと：相和ハッピー祭の振り返り」(11月)、国語「書くこと：学習発表会の振り返り」(12月)について、相和っ子班(異学年縦割り班)や低・中・高学年で取り組んだ。共通の体験を題材にし、質問したり、感想を伝えたりすることで、仲間と学び合う時間になった。

##### ノート交流

算数ノート(7月)、家庭学習ノート(12月)について紹介し合った。ノートづくりのポイントをおさえてから交流することで、児童が友達に褒めってもらったり真似してみたいと憧れられたりする喜びを感じるとともに、思考を可視化する意識を芽生えさせることができた。

#### (3) 学びのアンケート

児童と職員を対象に、7月と12月の2回、「相和っ子学びのアンケート」を実施した。研究テ

マ「自立に向かう子」の設問「自分から進んで授業をつくったのは、どういう時ですか」では、次のような回答が得られた。

#### 児童より

**意欲** 「やってみたい・考えたい」と、意欲をもって挑戦した時  
ひき算の方法を考えた、国語でお話を考える等

**表現** 自分の考えを「形」にして伝えた時

計算の仕方を発表する、ノートにわかりやすく書く等

**協働** 友達と協力し、助け合った時

ノートを見せ合って交流する、友達と助け合って問題を解決する等

#### 職員より

**意識の変化** 児童の内面、意識の変化が見られた時

問いが身近で自分の問題になる、知的好奇心をくすぐる問題等

**授業のデザイン** 授業の構造、見通しが明確な時

ゴールと手順が見えている、解決に向けた手立てが見える等

**主導権を渡す** 教科の特性を生かし、児童に主導権を渡した時

新たな問い、次の問いを設定する、自分たちで判断して行動する等

### 3 実践の成果と課題

**成果** 自立に向かう子に向けて、児童が思考、発信、協働の充実感を味わうことができるよう授業に取り組んだ。教師が意識の変化を促すことで、児童にも変化が見られ、児童が自分たちで授業をつくることが増えてきた。また、研究をとおして、授業をデザインすることで児童が主体的に取り組むことや、児童に力を身に付けさせながら、段階的に児童に主導権を渡していくことに取り組んでいくという今後の方向性が見えてきた。

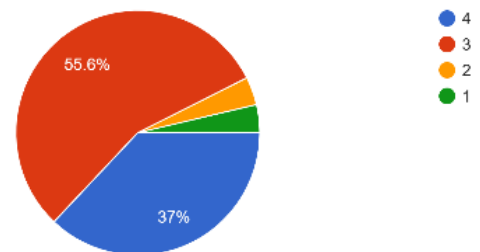
異学年合同学習に継続して取り組むことで、児童が共通の体験を題材として学び、エピソードや考えを共有し合うことができた。また、自分の考えや友達の思考、授業の振り返り等を視点にすることを、事前に共通理解してから交流することができた。

**課題** 研究テーマと目指す児童の姿を設定して今年度の研究を開始したが、1年間実践したことで、発達段階における到達目標を設定することの必要性を感じた。次年度は、今年度の4つの場面の姿（①計画②選択・決定③追究④振り返り）を生かすとともに、教師が教える場面と児童が主体

的に考える場面や、そのバランスについても研究を進めたい。また、6年間を見通して児童を育てるとともに、低・中・高学年の重点を設定したい。大井町学びづくり授業アンケートでは、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」ことについて、9割を超える児童が、肯定的な回答をしている。次年度、定義や到達目標をより実態に応じたものに修正し、研究テーマに向かっていくことで、今年度以上に「自立に向かう子」になるように実践していきたい。

#### 大井町学びづくりアンケート（12月実施）

設問：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。



4：そう思う	10人（37.0%）
3：どちらかといえばそう思う	15人（55.6%）
2：どちらかといえばそう思わない	1人（3.7%）
1：そう思わない	1人（3.7%）

異学年合同学習の内容や手法について、検討する必要がある。今年度は学び合いタイムで国語を行ったが、教師や児童が夢中になって取り組みたいと考える活動を、計画に基づいて実践することも一案である。また、次年度の研究内容も考慮しながら、児童が「自立に向かう」よう、研究を進めていきたい。

### 4 今後の展開

学校教育目標にある「自ら考え」を校内研究においても引き続き大切にする。「自立に向かう子」の2年目として、定義を明確にするとともに、町の研究とも連携しながら、児童の育成、研究を進めていきたい。